

特別企画

移動販売の役割とは？

買い物困難者支援と地域コミュニティの創出  
食品ロスの削減（SDGs）繋いでいこう



昨年、移動販売をしようとした小川さん（右）に掲載「買い物困難者や移動販売を卒論のテーマに取上げ、熱心に調査研究している学生たちがいる」と、ほらんていあ通信で取り上げて欲しいという情報をいただきました。

12月16日（金）10時、奥宮下溝団地の集会所協働の計りで、寒いからと集会所に移動。

相模原市並木にお住まいで、国分寺にある東京経済大学経営学部流通マーケティング学科4年生の柳下愛菜さんとインタビューさせていただきました。

★移動販売を卒論のテーマに選んだきっかけは？

回覧板で下溝団地に移動販売車が来ていることを知り、地元も高齢化が進んでいるのだと感じたことがきっかけです。買い物困難者への支援方法や、その経済効果などについて興味を持ち、このテーマを選びました。

★どんな工夫がまぎっていたのでしょうか？

全国の事例を勉強してから、地元の関係者さんに、移動販売を始めるとはどのような手続きが必要なのかインタビューしました。



素敵な笑顔の柳下愛菜さん

行政の許可をもらう前に、販売場所の確保が必要で、地主の方や自治会の方と交渉して許可を得るから、書類を提出するのですが、行政側も福祉対策の窓口が一本化されていないため、結構時間と手間がかかってしまっていることがわかりました。

★許可が下りれば、すぐ移動販売ができるのですか？

やはり集客が必要ですので、移動販売車が来ていることを認知してもらうことも重要だと私は考えています。何か貢献出来たらと思います、イラスト入りチラシを作りました。喫茶などの集いを利用して宣伝し、引きこもり気味の人にはフチコミを通じて知ってもらいたいと思います。

★買い物困難者の支援の他に移動販売のメリットは？

買い物だけでなく、付加価値として、楽しいお喋りや病院などの情報交換の場にもなっています。利用者は高齢者だけでなく、幼児をかかえた若いお母さんたちもいるので、世代間を越えた交流の場にもなっていると思います。

★最近の移動販売事情はどのようですか？

イオンやイトヨーカドーなどの大手企業も冷蔵車を使って移動販売をおこなっています。商品を頼んでおくと、次回持つてきいれます。

野菜の移動販売の仕組みとしては、食べ方を教えてくれたり、野菜が重ければ届けたいからと、きめ細かいサービスを提供し、なおかつ住民同士のコミュニケーションの場を生み出している、地域として重要な存在になっていっていると思います。



自治会館の集会所をお借りし取材を！

行動的な大学生さんらしいからと、勝手に運い女性を想像していたら、可愛らしい楚々としたお嬢さんが出現してびっくり！ 経営学部は6対4位で女子が少ない環境で地道に調査研究して卒論に挑んでいる女子学生さんがいるという、高齢者のぼろっ通担当者は大いに心強くなりありがとうございます！

(山崎)



大学がある国分寺の魅力をお菓子という形で届けようと、東京経済大学とJAとお菓子メーカーのコラボ商品『ぶんぶんキャラベリー』。ブルーベリーの香りが口いっぱいに広がります。お土産をいただきました♪



柳下さんはイラストもプロの腕前です！野菜販売車のつどやさんのチラシも作成！